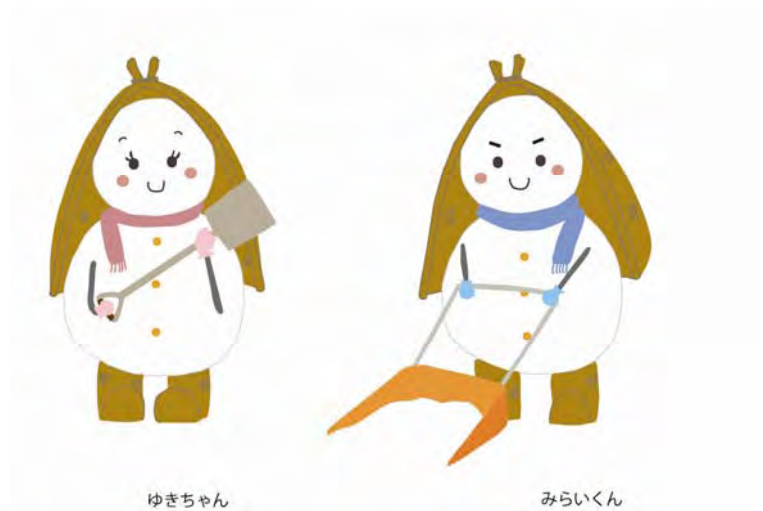


やまがたゆきみらい推進機構



# 事業評価委員会報告書



平成 24 年 11 月

# 目 次

1	事業評価の趣旨	- 1 -
2	事業評価の手法	- 1 -
3	評価・改善(対応)策の検討	- 1 -
4	事業評価	- 2 -
	<b>【 克 雪 : 宅 地 内 雪 処 理 】</b>	<b>- 2 -</b>
	官民協働除排雪事業	- 2 -
	1) 官民協働除排雪事業 【H19～】	- 2 -
	除雪ボランティア活動の拡大	- 3 -
	2) 除雪ボランティアのネットワーク化 【H23～】	- 3 -
	3) 雪かき塾 【H20～】	- 4 -
	4) 雪かき指導者認定制度 【H23～】	- 4 -
	5) 雪かき道場 【H20～H22】	- 5 -
	6) 雪かき体験交流会への支援 【H23～】	- 5 -
	消融雪設備の調査研究	- 6 -
	7) 消融雪設備技術展示会・意見交換会 【H22～】	- 6 -
	8) 融雪槽の実証試験 【H19～H21】	- 7 -
	9) 他エネルギー等を活用した融雪システムの可能性調査 【H22】	- 7 -
	<b>【 克 雪 : 屋 根 雪 処 理 】</b>	<b>- 8 -</b>
	雪対策に強い住宅の普及啓発	- 8 -
	10) 安全な雪下ろし作業等の普及啓発等 【H19～】	- 8 -
	雪対策に強い住宅の普及啓発	- 9 -
	11) 住宅モデル模型の制作と巡回展示 【H22～H23】	- 9 -
	13) シンポジウム「雪と建築」の開催 【H23】	- 11 -
	14) 雪に強い住宅作品のホームページ掲載 【H23～】	- 12 -
	15) 雪に強い住宅作品のパネル展示会	- 12 -
	雪国の住まい・生活ハンドブックの制作	- 13 -
	16) 雪国の住まい・生活ハンドブックの制作 【H23～H24】	- 13 -
	17) 雪国の住まい・生活モニター事業	- 14 -
	<b>【 利 雪 】</b>	<b>- 15 -</b>
	18) 真夏の親子雪体験バスツアー 【H20～】	- 15 -
	再生可能エネルギー(雪氷熱エネルギー)	- 15 -
	19) 再生可能エネルギー(雪氷熱エネルギー)普及啓発 【H19～】	- 15 -
	20) 地域おこし支援 【H20～】	- 16 -
	雪室を活用した実用化試験	- 17 -
	21) 自然薯の雪室長期貯蔵試験 【H22～H23】	- 17 -
	22) 雪の冷風を利用した靱乾燥試験	- 17 -
	<b>【 共 通 】</b>	<b>- 19 -</b>
	表彰制度	- 19 -
	23) やまがたゆきみらい大賞 【H20～】	- 19 -
	24) こどもゆきみらいコンセプト 【H20～】	- 19 -
	情報発信	- 20 -
	25) ホームページの管理運営	- 20 -

5	組織のあり方	- 21 -
6	財政基盤の確立	- 22 -
7	全般について	- 22 -
8	事業評価委員会の開催	- 23 -



## 1 事業評価の趣旨

やまがたゆきみらい推進機構（以下「機構」という。）が将来に向かって、その使命を果たすために、事業、組織、財政基盤について、効果・効率的な運営がなされているか現状を評価することにより、機構の今後の事業展開の方向性を定めるために実施した。

## 2 事業評価の手法

機構内に事業評価委員会（事務局：村山総合支庁北村山総務課・地域振興課）を設け、これまでの実績等を踏まえながら評価作業にあたった。

### 【事業評価委員会】

委員長	東山	禎夫	（山形大学大学院教授	：学：米沢市
委員	沼野	夏生	（東北工業大学教授	外部委員：学：仙台市
〃	桂木	聖彦	（日本地下水開発㈱常務取締役	：産：山形市
〃	二藤部	久三	（尾花沢市民雪研究会運営部会長	：産：尾花沢市
〃	浅野	信弥	（村山市河島山自治会長	：民：村山市
〃	菅野	他人男	（尾花沢市雪対策・新エネルギー推進室長	：官：尾花沢市
〃	今田	秀喜	（村山総合支庁地域振興監	：官：村山市
（合計7名：産2、学2、官2、民1）				

## 3 評価・改善（対応）策の検討

下記（1）から（3）について、□現状把握、□課題抽出、□改善（対応）策の検討を行った。

次の項目及び観点で評価を行った。

### （1）事業評価について

〔評価の観点〕

機構が取り組んできた25事業について評価し、今後の事業展開・事業の見直し等を検討し、以下のとおり5段階の数値化にて評価を行った。

☆	5	： 県内外への普及拡大を図るべきである。	： 6件
☆	4	： 県内への普及拡大を図るべきである。	： 3件
☆	3	： 当面現状維持とするべきである。	： 12件
☆	2	： 事業休止とするべきである。	： 0件
☆	1	： 事業廃止（終了）とするべきである。	： 4件

### （2）組織について

〔評価の観点〕

産・学・官・民の連携組織として村山総合支庁北村山総務課が事務局を担っている現在の組織について、今後の望ましい組織のあり方を検討した。

### （3）財政基盤について

〔評価の観点〕

持続可能な運営を展開するための財政基盤の確立に向けて、財源確保のあり方を検討した。



#### 4 事業評価

##### 【克雪：宅地内雪処理】

##### 官民協働除排雪事業

##### 1) 官民協働除排雪事業 【H19～】

##### ○ これまでの取組

- ・ 各総合支庁管内の住民、行政機関等へ説明
- ・ 7箇所協定締結（村山市袖崎・河島山、尾花沢市五十沢・常盤4地区）
- ・ 3回作業実施（村山市袖崎1回・河島山2回）



##### ○ 成果

##### 【協定締結地区】

- ① 村山市袖崎まちづくり協議会：H21.2.4
- ② 村山市河島山自治会：H21.2.6
- ③ 尾花沢市五十沢地区：H21.2.9
- ④ 尾花沢市常盤地区：H24.1.4 北村山管内での普及拡大が図られた。

##### ○ 課題

- ・ 県内への普及拡大（協定締結）は簡単でない。
- ・ 住民ニーズに基づく説明会を開催
- ・ 除雪機械所有や老若世帯間の排雪量のギャップ解消
- ・ 住民全体に周知させるための自治会役員の業務量が多い。
- ・ 空家問題の克服

○ **主な意見**

- ・ 住民ニーズにマッチした説明会を開催していく。(東山委員長)
- ・ 協定地区で作業をしていない地区のフォローが必要である。(沼野委員)
- ・ 地域内の若い人の力で高齢者世帯を手伝う取組をしていく。(二藤部委員)
- ・ ボランティア活動を入れていく。(東山委員長)
- ・ 反対意見の理由がわかるアンケートのとり方の工夫が必要である。(東山・沼野委員)
- ・ 安全に対する備えとして普及させていく。(今田委員)
- ・ 県を代表する事業なので、問題点を整理して普及させていく。(二藤部委員)

○ **評 価**

- 3：地域内の要援護者世帯を支援する共助体制の構築やボランティアを活用し、参加世帯間の不公平感を解消するなどの問題点を整理したうえで、普及拡大のための住民説明会を開催していく。

○ **今後の事業展開**

- ・ 県内での普及拡大のための住民説明会
- ・ 合意形成地区との協定締結
- ・ 協定締結地区で作業実施に向けた打合せ
- ・ 協定締結地区での作業実施

## 除雪ボランティア活動の拡大

### 2) 除雪ボランティアのネットワーク化 【H23～】

○ **これまでの取組**

- ・ 意見交換会開催：置賜管内のボランティア団体、県・市町、県社会福祉協議会・市町社会福祉協議会：40名参加



**雪サロン**

(山形大学工学部百周年記念会館平成23年10月15日)

**コーディネーター**

- ・山形大学大学院 教授 東山禎夫 氏
- ・尾花沢市民雪研究会 二藤部久三 氏

**参加団体 (参加者40名)**

- ・置賜地区 ボランティア団体・各市町村雪対策担当
- ・置賜地区 各市町村社会福祉協議会

ボランティア活動の課題解決に向けた意見交換云

○ **成 果**

- ・ 市町村課の全県的な取組みと連携を図った。
- ・ 広域ボランティア活動に対する交通費支給制度の設立(市町村課)
- ・ ボランティア人材登録制度新規立上げ(H24 新規：市町村課)

○ **課 題**

- ・ ボランティア団体の地域間のネットワーク化
- ・ ボランティア活動の更なる拡大

○ **主な意見**

- ・ 継続して開催していく。(菅野委員)
- ・ 県内に普及させていかないと意味がない。(沼野委員)
- ・ 県内各地区で開催してネットワーク化を図る。(東山委員長)

○ **評 価**

- 4：ネットワーク化を図るために、意見交換会を県内各地区で継続して開催し、県内に広く普及させていく。

○ **今後の事業展開**

- ・ 除雪ボランティア意見交換会の継続開催

### 3) 雪かき塾 【H20～】

#### ○ これまでの取組

- ・ シンポジウムの開催（尾花沢中学校）：尾花沢・宮沢中学校生徒等 200 名参加
- ・ 尾花沢・宮沢中学校（尾花沢市内高齢者宅等）
- ・ 北村山高校（大石田町内高齢者宅等）



雪かき塾（尾花沢市内 11 軒 平成 24 年 1 月 26 日）  
参加者

・尾花沢・宮沢中学校 約 110 名



雪かき塾（大石田町内 4 軒 平成 24 年 2 月 13 日）  
参加者

・北村山高校 約 20 名

#### ○ 成 果

- ・ 北村山管内のボランティア活動の担い手育成が図られた。

#### ○ 課 題

- ・ 北村山管内及び県内への拡大

#### ○ 主な意見

- ・ 防災教育としての位置付けでよい。（二藤部委員）
- ・ 雪かき塾の調整会議に教員、社協職員、行政職員が集まるのがネットワークである。（二藤部委員）
- ・ 中高校生の地域教育やネットワーク化の可能性を広げることも重要である。（沼野委員）

#### ○ 評 価

- 4：中高生の防災教育や地域教育として、県内の参加校の拡大及びネットワーク化を図っていくことが重要である。

#### ○ 今後の事業展開

- ・ 中高校生の参加者拡大に向けた取組
- ・ 調整会議の開催

### 4) 雪かき指導者認定制度 【H23～】

#### ○ これまでの取組

- ・ 他県の類似制度等の情報収集

#### ○ 成 果

- ・ 制度発足に向けた検討が始まった。

#### ○ 課 題

- ・ 指導者の掘り起こし、育成。

#### ○ 主な意見

- ・ なし

#### ○ 評 価

3：H24 に制度を創設する。

#### ○ 今後の事業展開

- ・ 雪かき指導者認定制度発足（新規）
- ・ 雪かき指導者認定講習会の開催



5) 雪かき道場 【H20～H22】

○ これまでの取組

- ・ 県内外からのボランティアを対象にした雪かき技術の指導とボランティア活動
- ・ 村山市山の内地区 (H20～H21 : 37 人)
- ・ 尾花沢市徳良湖・押切地区 (H22 : 27 人)



雪かき道場

(尾花沢市内 平成 23 年 2 月 19～20 日)

参加者

宮城県や兵庫県など、20～60代の学生  
社会人の男女27名が参加

○ 成 果

- ・ 地域間交流による災害への備えの醸成が図られた。

○ 課 題

- ・ 経費、募集方法、受入体制整備のための業務量が多い。
- ・ 災害時相互支援協定に基づく地位間交流を支援していく方が最善である。

○ 主な意見

- ・ なし

○ 評 価

1 : 雪かき体験交流会への支援に制度移行のために終了とする。

○ 今後の事業展開

- ・ 雪かき体験交流会を支援していく事業展開に変更

6) 雪かき体験交流会への支援 【H23～】

○ これまでの取組

- ・ 尾花沢市宮沢地区共助による地域除雪の実施 (地元住民・国・県・市・市社協・東北工業大学ボランティア)



雪かき体験交流会 (尾花沢市丹生第二地区3軒 平成 24 年 2 月 19 日)

参加者 宮城県東北工業大学生ら約 40 人

○ 成 果

- ・ 雪かき道場のノウハウを継承していく。
- ・ 地域間交流による災害への備えの醸成が図られた。



- 課 題
  - ・ 継続的開催
  - ・ 他地区への拡大
- 主な意見
  - ・ 地域間交流の一番の目的は、災害支援よりも人的交流である。(二藤部委員)
  - ・ 他地域に交流活動の熟度を高めていく。(東山委員長)
- 評 価
 

3：地域間交流の一番の目的は、災害支援よりも人的交流であるので、交流活動の熟度を高めていく。
- 今後の事業展開
  - ・ 新規地区の掘り起こし

### 消融雪設備の調査研究

#### 7) 消融雪設備技術展示会・意見交換会 【H22～】

- これまでの取組
  - ・ 米沢市、新庄市で開催



雪サロン  
(新庄市屋内多目的施設「すばーていあ」平成23年11月2～3日)

#### コーディネーター

・山形大学大学院 教授 東山禎夫 氏

#### 参加業者

・日本地下水開発株式会社、・サン・エコ株式会社  
 ・後藤電子株式会社、・株式会社大仁  
 ・株式会社千歳工務店

- 成 果
  - ・ 雪処理の負担軽減につながる普及啓発が図られた。
- 課 題
  - ・ 需要増に結びつけるための低コスト商品の開発
  - ・ 調査・研究のための組織づくり
- 主な意見
  - ・ 低コスト化については、企業の取組の情報収集を行う。(東山委員長)
  - ・ 全国の先端に行く本県の技術を県内外に普及拡大を図る。(桂木委員)
- 評 価
 

5：課題である低コスト化については、企業の取組の情報収集及び支援を行っていく。また全国の先端に行く本県の技術を県内外に普及拡大を図っていく。
- 今後の事業展開
  - ・ 消融雪設備技術展示会
  - ・ 意見交換会の継続開催

## 8) 融雪槽の実証試験 【H19~H21】

### ○ これまでの取組

- ・ 村山市榎岡市民センター、袖崎市民センター、東根市商工会館、尾花沢市役所、寒河江市役所の5箇所の実証試験実施
- ・ 実証試験結果とりまとめを山形大学工学部に委託 (H21)



榎岡地区市民センターに設置された融雪槽



尾花沢市役所に設置された融雪槽

### ○ 成 果

- ・ 雪処理の負担軽減につながる普及啓発が図られた。

### ○ 課 題

- ・ 需要増に結びつけるための低コスト商品の開発

### ○ 主な意見

- ・ 実証試験は終了しているので評価は1とする。(東山委員長)
- ・ 全国的に普及していない。(沼野・桂木委員)
- ・ 融雪槽が有効な家庭もあるのでもう少しフォローを続けていく。(東山委員長)
- ・ 無散水消雪に変わってくる傾向である。(二藤部委員)

### ○ 評 価

- 1: 実証試験は終了とする。融雪槽は全国的に普及していない状況であるが、有効な家庭もあるのでもう少しフォローを続けていく。

### ○ 今後の事業展開

- ・ 実証試験は終了とし、融雪槽の利用状況を見守って行く。

## 9) 他エネルギー等を活用した融雪システムの可能性調査 【H22】

### ○ これまでの取組

- ・ 下水熱を活用した消融雪システムの可能性調査
- ・ 他自治体等の研究成果等の情報収集

### ○ 成 果

- ・ 雪処理の負担軽減につながる普及啓発が図られた。

### ○ 課 題

- ・ 需要増に結びつけるための低コスト商品の開発、調査・研究のための組織づくり

### ○ 主な意見

- ・ 下水熱利用の評価は1とする。(東山委員長)
- ・ 地下熱利用の屋根雪処理を研究していただきたい。(浅野委員)
- ・ 下水熱利用の消雪は普及困難である。(桂木・二藤部委員)

### ○ 評 価

- 3: 下水熱利用の消融雪の普及は困難であるが、再生可能エネルギー活用の可能性を模索していく。

### ○ 今後の事業展開

- ・ 今後の状況を見守っていく。

## 【克雪：屋根雪処理】

### 雪対策に強い住宅の普及啓発

#### 10) 安全な雪下ろし作業等の普及啓発等 【H19～】

- これまでの取組
  - ・ 雪の総合案内（村総北庁舎ロビー）で常設展示（安全带・命綱・ヘルメット・啓発パネル）
  - ・ 雪下ろしガイドの展示、安全な雪下ろし作業 DVD の上映
  - ・ 安全な雪下ろし作業DVD再配付（県関係課、各総合支庁、全市町村等）
  - ・ 安全な雪下ろし作業DVDの上映（県庁・各総合支庁・市町村ロビー等）
  - ・ 安全な雪下ろし用具巡回展示（村総・北村山管内4市町）
  - ・ 広報車による啓発 ・ 出前講座（2回）
  - ・ 東日本大震災の避難者に対する冬の暮らしについての説明（3回：寒河江市）



出前講座（村山市楯岡笛田公民館 約40名）



DVD上映等（尾花沢市役所市民ホール）



街頭啓発（県の公用車による巡回啓発）



避難者支援（寒河江自動車学校4回 計80名）

- 成果
  - ・ 市町村課の全県的な取組みと連携し対策を強化し、今まで以上に支援を行った。
- 課題
  - ・ 関係課と共同で、より効果的な県全体での普及啓発活動を展開する必要がある。
- 主な意見
  - ・ 早い時期からの普及啓発活動を行うべきである。（今田委員）
  - ・ マスコミを活用してシーズン中に何度も放送する必要がある。（東山委員長）
  - ・ 11月くらいから夕方の方の家族が見るような時間帯に放送すると県民に浸透していく。（二藤部委員）
- 評価
  - 5：二年連続での豪雪による被害を撲滅していくには、これまでの取組みに加えて雪対策行政との連携を更に強化するとともに、メディアを活用したTV放映等を行い広く県内外に浸透させていく。
- 今後の事業展開
  - ・ 現在までの取組みに追加して、命綱着用率向上のための実効性ある事業を行う。
  - ・ 雪害事故防止週間の設定
  - ・ マスコミを活用した啓発
  - ・ 安全な雪下ろし ・ 除雪作業の実技講習会の開催
  - ・ 「住宅に命綱の取り付け場所を見つけよう」運動の展開
  - ・ 県広報誌等を利用した啓発活動など

## 雪対策に強い住宅の普及啓発

### 11) 住宅モデル模型の制作と巡回展示 【H22～H23】

#### ○ これまでの取組み

- ・ 東北芸工大と共同で模型制作
- ・ 模型巡回展示（総合支庁、市町村、住宅展示場、ビックウィング、イオン山形南 SC 等 15 箇所）

☆住宅の新築・リフォームの際に、  
屋根形状の選択や屋根雪処理など  
の雪対策として配慮すべきポイント  
を解説した模型を制作しました

展示中



作成 東北芸術工科大学  
デザイン工学部 教授 山畑信博  
学生 阿部しおり 堀内香那

村山総合支庁北庁舎 1 階総合案内にて展示中

#### ○ 成果

- ・ 住宅新築時等に雪対策として配慮すべきポイントを視覚的に捉えることができ、雪に配慮した住まいづくりの啓発がなされた。

#### ○ 課題

- ・ 県民の意識を高め、実際の住宅新築時に雪対策に配慮した住まいづくりにどのように活かしていくか。

#### ○ 主な意見

- ・ 他の活動と連携して効果が出るか確認した上で普及拡大していくべきで。 (沼野委員)
- ・ モデル模型を見て住宅を建てた人がどの程度いるか、その反応や改善要望が出てくると効果があったのかなと思う。 (二藤部委員)

#### ○ 評価

- 3 : モデル模型を参考にして住宅建築をした施主がどの程度いるのか、また参考とした施主から反応や改善要望が出てくるように問題点を整理し、効果が出るように課題を整理してから普及させていく。

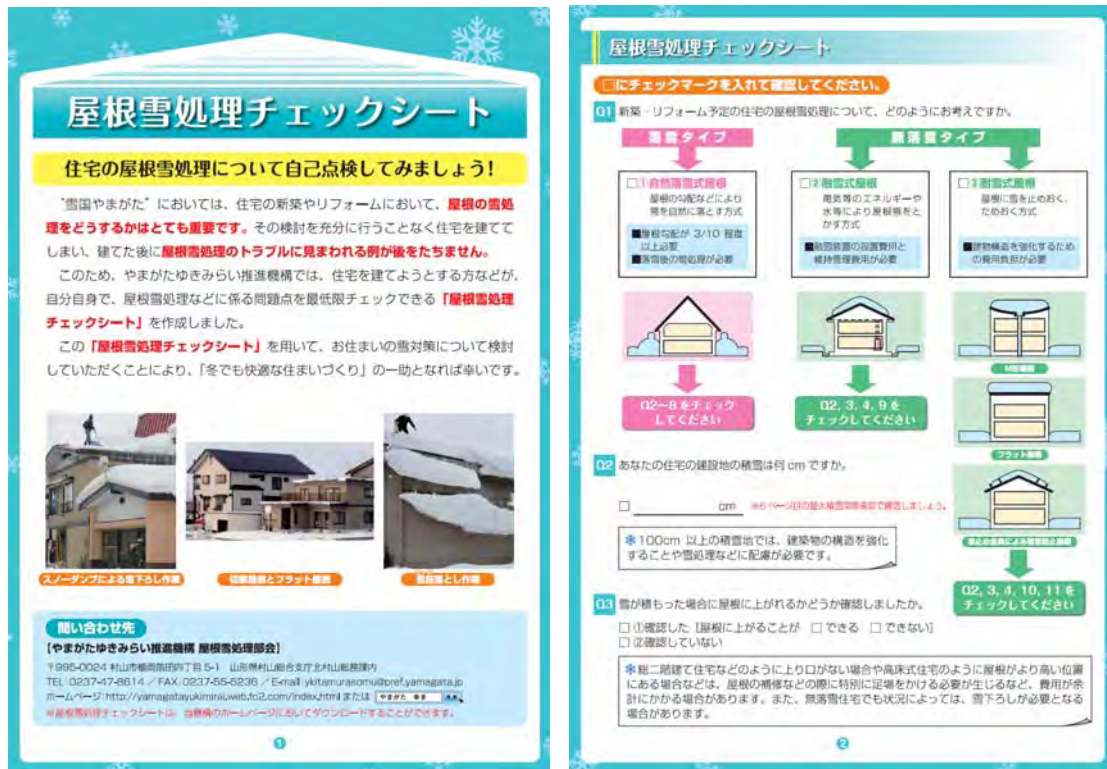
#### ○ 今後の事業展開

- ・ 今後ともイベント等において模型を展示し、住宅の雪対策の推進を図る。

## 12) 屋根雪処理チェックシートの制作と啓発活動 【H22～H23】

### ○ これまでの取組

- ・ 屋根雪処理チェックシートを作成
- ・ 3,500部作成し、住宅展示場、県建築士会、研究機関、市町村等に配付
- ・ イベント等での配付による普及・啓発活動（追加500部）



平成23年度8月に公表した屋根雪処理チェックシートの一部

### ○ 成果

- ・ 住宅新築時等に雪対策として配慮すべき課題を自己点検することにより、雪に配慮した住まいづくりの啓発がなされた。

### ○ 課題

- ・ 当該シートを積極的にPRし、実際に住宅新築時等の使用率を高めていくこと。
- ・ 住宅産業界との連携によるシートの周知の拡大

### ○ 主な意見

- ・ 中身を改訂し充実させていけば施主にはかなり効果がある。(沼野委員)
- ・ 屋根勾配と落雪飛距離が他県の事例なのでチェックが必要である。(沼野委員)
- ・ 施主と業者間で雪対策の話がないので、チェックシートは役立つ。(浅野委員)
- ・ 数値はあくまで目安である旨を記載すれば良い。(沼野・今田委員)
- ・ 実際の効果について再検証する必要がある。(沼野委員)

### ○ 評価

- 3：屋根勾配と落雪飛距離が他県の事例なのでチェックが必要であるなど、内容を充実させていけば施主にはかなりの効果がある。また住宅建築時に施主と業者間で雪対策の話がないので、このチェックシートは役立つ。

### ○ 今後の事業展開

- ・ 今後ともイベント等での当該シートの配付を強化し、周知の拡大に努めていく。

### 13) シンポジウム「雪と建築」の開催 【H23】

#### ○ これまでの取組

- ・ 講師：千葉大学大学院教授（村山市）
- ・ 一般、建築士等 80 名参加
- ・ 基調講演：雪対策に配慮した家づくりについて
- ・ 地元建築士の事例発表と意見交換会



【基調講演】『雪と建築』—温暖化傾向の中での雪害の実態と対応—

千葉大学大学院教授 高橋 徹 氏

11月12日(土) 蕨葉プラザ【村山市】(参加者約80名)

【事例発表】『建築士から山形の冬を考慮した住まいづくりの事例発表』

株式会社イイダ設計 尾花沢分室室長 大類 茂雄 氏

空間工作室BEELINE 代表 佐藤 剛志 氏



#### ○ 成 果

- ・ 雪対策に強い住まいづくりを考える契機となり、住宅の雪問題の意識が高まった。

#### ○ 課 題

- ・ 県民の意識を高め、実際の住宅新築時に雪対策に配慮した住まいづくりにどの様に活かしていくか。

#### ○ 主な意見

- ・ 一般の方の参加が少ない理由を考える必要がある。(浅野委員)
- ・ 建築士会の勉強会という位置付けでも良いので、その中でチェックシートの活用法を検討しても良い。(東山委員長)

#### ○ 評 価

- 4：一般の方の参加が少ない理由を考える必要がある。  
建築士会の勉強会という位置付けでも良いので、その中でチェックシートの活用法を検討しても良い。

#### ○ 今後の事業展開

- ・ 雪下ろしの知らない克雪住宅の普及啓発を行う。
- ・ 安全な雪下ろし作業等の普及啓発を行う。



14) 雪に強い住宅作品のホームページ掲載 【H23～】

- これまでの取組
  - ・ HP:掲載 (6 作品)

◎2011年作品のテーマ「雪に強い住まいづくり」

※自然落雪式屋根、融雪式屋根、無落雪・耐雪式屋根の住宅

- ◆ ご応募いただきました当機構会員等の雪に強い住宅の作品を当館に掲載しております。  
 なお、雪に強い住宅の作品に関するお問い合わせなどにつきましては、社までお願いいたします。

- 1 株式会社イダ設計尾花沢分室…作品のページ(PDF1.4MB)  
 (尾花沢市 電話0237-22-2080)
- 2 株式会社日建設備…作品のページ  
 ①A宅(PDF2.38MB) ②S宅(PDF1.36MB)  
 ③W宅(PDF1.02KB) ④サンプル宅(PDF1.98MB)  
 (米沢市 電話0238-21-4300)
- 3 阿部建築研究室…作品のページ(PDF963KB)  
 (金山町 電話0233-52-2318)

◎2010年作品のテーマ「置賜地域に適した耐雪屋根住宅」

※置賜地域に適した150cm以上の積雪に耐え得る構造をもつ無落雪・耐雪式屋根の住宅

- ◆ ご応募いただきました当機構会員の雪に強い住宅の作品を当機構への応募順に掲載しております。  
 なお、雪に強い住宅の作品に関するお問い合わせなどにつきましては、直接、掲載社までお願いいたします。

- 1 株式会社ウソノハウス…作品のページ(PDF182KB)  
 (山形市 電話023-623-5311)
- 2 空間工作室BEELINE…作品のページ【内容更新】(PDF428KB)  
 (米沢市 電話0238-23-4525)
- 3 太田建設株式会社…作品のページ(PDF239KB)  
 ※冬の住宅の様子はこちらから…作品のページ(PDF627KB)

やまがたゆきみらい推進機構ホームページに掲載

- 成 果
  - ・ 雪対策に強い住宅の普及啓発が図られた。
- 課 題
  - ・ 県建築士会、消融雪設備事業者等との連携による作品募集を強化していく。
- 主な意見
  - ・ ただ掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて公表したほうが問題が少ない。  
 (沼野委員)
- 評 価
  - 3：単純に掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて掲載したほうが問題が少ない。
- 今後の事業展開
  - ・ 消融雪設備のある住宅の事例集を作成し、一般の方に消融雪設備を紹介していく。

15) 雪に強い住宅作品のパネル展示会 【H23～】

- これまでの取組
  - ・ 米沢市：2回、村山市：1回



雪に強い住宅作品パネル展示会 (村山市蕨葉プラザ 平成 23 年 11 月 12 日)

- 成 果
  - ・ 住宅産業関係者や一般の方が見学に訪れ、雪対策に強い住宅の啓発が図られた。
- 課 題
  - ・ 県建築士会、消融雪設備事業者等との連携による作品募集を強化していく。

- **主な意見**
  - ・ ただ掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて公表したほうが問題が少ない。  
(沼野委員)
- **評 価**
  - 3：単純に掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて掲載したほうが問題が少ない。
- **今後の事業展開**
  - ・ 展示内容を充実して開催する。

## 雪国の住まいハンドブックの制作

### 16) 雪国の住まいハンドブックの制作 【H23～H24】

- **これまでの取組**
  - ・ 東北芸工大、関係機関、県建築士会、住宅関連企業等の17名によるプロジェクトチームを結成、プロジェクトチーム会議を平成23年度に2回開催（11月:モニター事業実施、2月:モニター事業の中間報告）、平成24年度に2回開催（6月:概要、10月:最終原稿）

#### 雪国の住まいハンドブックについて

##### 【趣旨・目的】

本県においては、住宅の新築時において屋根及び敷地内等の雪処理方法を吟味していくことが極めて重要であるが、それらに対して十分に検討することなく住宅を建築し、建築後に雪処理に関する隣地とのトラブルや敷地内の雪処理スペースの問題に見まわれるケースが後を絶たない。

これらを踏まえ、本県において、高齢者等が冬でも安心してより快適に生活していくため、適切な屋根形状の選択をはじめ、雪対策を工夫している住宅の事例やノウハウ等を盛り込んだ「雪国の住まいハンドブック」を制作する。

##### 【完成・公表】

平成24年11月13日 平成24年度「克雪体制シンポジウム」にて公表

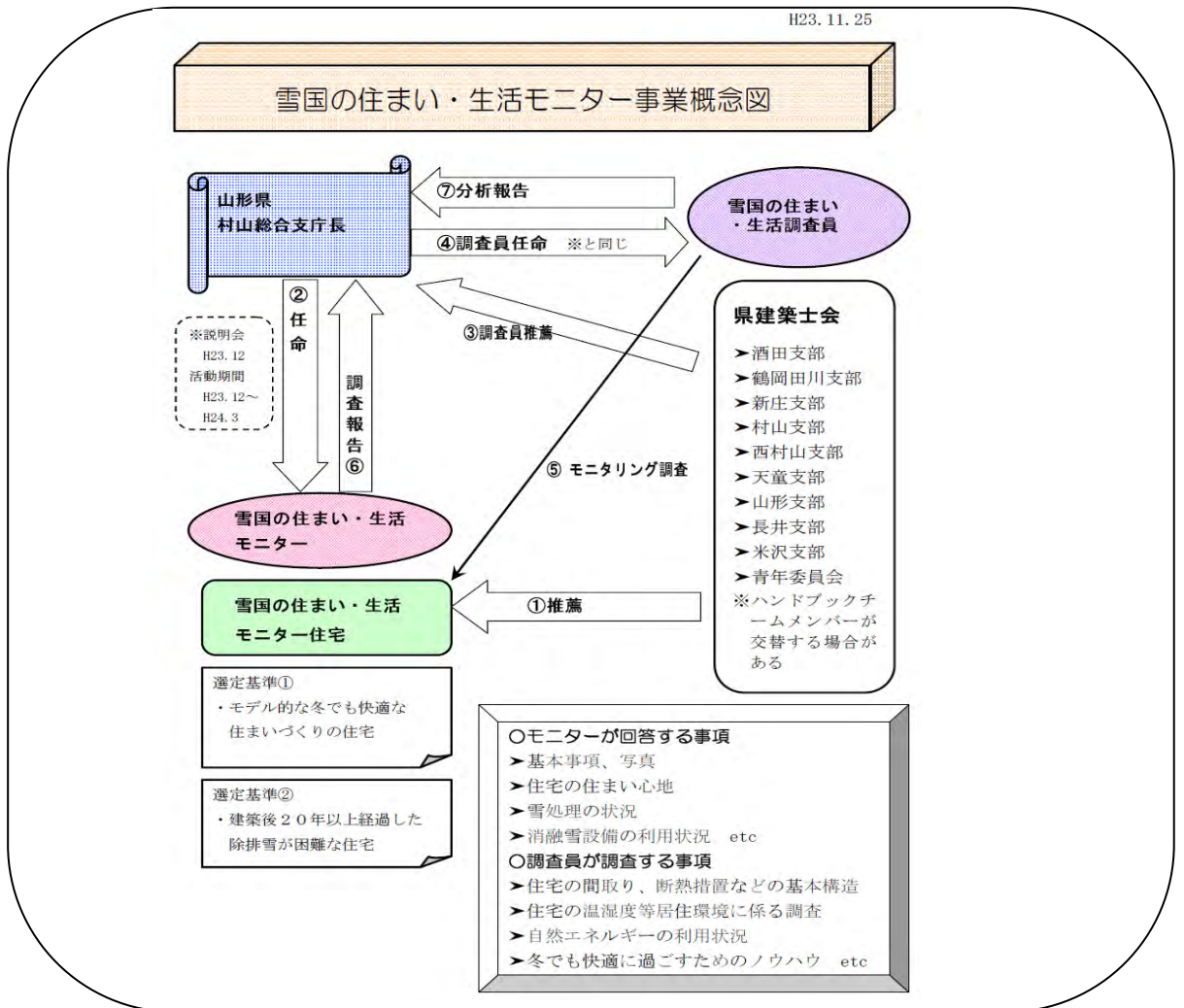
- **成 果**
  - ・ 直近の会議において、今秋の完成・公表を目指していくことを確認し、現在原稿執筆中。
- **課 題**
  - ・ 県建築士会や関係機関等と連携を図って普及啓発に努めるとともに、プレスリリース等による広報媒体を活用したPRに努める。
- **主な意見**
  - ・ 制作中なので評価できないが、取組自体は継続していく。（東山委員長）
- **評 価**
  - 3：現在制作中のために、この取組を継続していく。
- **今後の事業展開**
  - ・ 普及啓発活動
  - ・ 利活用に向けた検討



17) 雪国の住まい・生活モニター事業 【H23～H24】

○ これまでの取組

- ・ 平成 24 年 1 月～3 月に戸建住宅（24 戸）の雪対策や居住環境等の調査を実施



○ 成 果

- ・ 調査の結果、一般的な傾向が認められ、また個別具体的な意見等についてはハンドブック制作時のノウハウ等として活用していく。

○ 課 題

- ・ 調査時の標本数が 24 軒と限られていることもあって、特定の指標に対して特異的に現れる傾向は見当たらなかった。

○ 主な意見

- ・ 制作中なので評価できないが、取組自体は継続していく。(東山委員長)

○ 評 価

- 3：現在製作中のために、この取組を継続していく。

○ 今後の事業展開

- ・ 調査結果の改善策等をプロジェクトチームで検討し、データを整理。報告書を作成し、関係者にデータを還元する。
- ・ ハンドブックのモニタリング活動、消融雪設備の紹介など山形の冬の住まい・生活の向上に資する展示会を行う（3 回程度）

## 【 利 雪 】

### 18) 真夏の親子雪体験バスツアー 【H20～】

#### ○ これまでの取組

- ・ 村山、最上地域の雪関連施設への学習ツアー開催（北庁舎雪の総合案内、雪冷房・雪室施設、新庄市雪の里情報館、雪氷防災研究センター新庄支所など）



出発式（平成24年8月4日）  
県内 25名の親子が参加



雪氷防災研究センター新庄支所での雪観察

#### ○ 成 果

- ・ 世界初の雪冷房施設、雪国の文化や雪対策の歴史、雪氷を使った実験や吹雪体験などにより、雪への教育的な関心を高めることができた。

#### ○ 課 題

- ・ 小学生やその保護者が参加しやすい実施時期や見学施設を検討する。

#### ○ 主な意見

- ・ 雪氷防災研究施設は、本州で二箇所しかない雪の調査研究施設である。このツアーなどを利用して一層のPRを行う必要があり、機構の活動にもマッチしている。（桂木委員）
- ・ 活動が事務局任せとなっており、利雪部会として企画への関わりが必要である。  
（二藤部委員）
- ・ 機構の関わりがないので、行政主体でやればよい。（今田委員）
- ・ もっと参加者を増やす努力が必要である。（東山委員長）

#### ○ 評 価

- 5：雪氷防災研究施設は本州で二箇所しかない雪の調査研究施設なので、このツアーでPRし認知度を向上させていく。  
利雪部会が関与し、魅力ある企画をたてて参加者を増やす工夫が必要である。

#### ○ 今後の事業展開

- ・ 雪関連施設のイベントなどと連携して継続開催していく。

### 再生可能エネルギー（雪氷熱エネルギー）

### 19) 再生可能エネルギー（雪氷熱エネルギー）普及啓発 【H19～】

#### ○ これまでの取組

- ・ シンポジウムの開催（雪氷熱エネルギー施設管理者、県民、行政職員等約70名参加）
- ・ 県内の雪室及び雪冷房マップの作成 ・ パネル巡回展示（山形県産業科学館、川西町フレンドリープラザ、鶴岡市中央公民館など県内8箇所）



利雪シンポジウム（村山総合支庁北庁舎 平成24年7月9日）県内 約70名の参加



○ 成 果

- ・ H23.1月にスタートした雪氷グリーン熱証書制度についての講演等により、雪氷エネルギー利用施設関係者や一般、行政関係者の理解度を高めることができた。
- ・ 県内の雪氷エネルギー利用施設の概要、位置を略図で視覚的に県民に紹介することができた。

○ 課 題

- ・ 県内雪氷エネルギー利用施設の雪氷グリーン熱証書制度活用を支援する。
- ・ 県民の雪氷エネルギー利用に対する関心を更に高める。

○ 主な意見

- ・ 県エネルギー戦略でいう地域分散型エネルギーの導入促進に向けた雪氷熱エネルギーの向かうべき方向性と連携が必要である。(今田委員)
- ・ 雪氷グリーン熱証書を活用できる施設は県内ではないため、県民への普及促進でなく情報発信のみとすべきである。(二藤部委員)

○ 評 価

- 3：県エネルギー戦略の施策の展開と連携を図っていく。  
雪氷グリーン熱証書を活用できる施設は県内ではないため、県民への普及促進でなく情報発信のみとすべきである。

○ 今後の事業展開

- ・ シンポジウムによる有識者の講演や県内の事例発表で、雪氷エネルギー利用の認知度を高める。
- ・ 北海道の先進事例の情報収集及び情報提供により、県内雪氷エネルギー利用施設の制度活用を支援する。
- ・ 雪室による酒や自然薯などの雪室貯蔵効果をPRし、県民の雪室利用への関心を高める。

20) 地域おこし支援 【H22～】

○ これまでの取組

- ・ 県内の雪室を活用した団体の活動紹介（大江町酒販会、尾花沢そば研究会事例発表など）
- ・ 大江町酒販会への簡易雪室活用技術支援（現地調査、温度湿度データ提供）
- ・ 東根市蟹沢地域おこしグループの雪室活用への技術支援（機能改善工法の技術指導、温度湿度データ提供、雪室活用方法の提案など）



蟹沢雪むろ夏の収穫祭（東根市蟹沢 平成24年8月18日）県内 約70名の参加

○ 成 果

- ・ 簡易雪室活用の技術支援により、地酒「大江錦」の雪室貯蔵による付加価値販売に繋がった。
- ・ 復旧を支援した昭和初期の雪室を核とした東根市蟹沢の地域おこしが始まった。

○ 課 題

- ・ 新たに雪室や雪冷房利用に取り組む個人や団体等を発掘し、技術支援により雪氷エネルギー利用を拡大する。

- **主な意見**
  - ・ 今後も簡易雪むろ等への農産物貯蔵や保存方法等への技術支援が必要である。  
(二藤部委員)
- **評 価**
  - 3：今後も簡易雪むろ等への農産物貯蔵や保存方法等への技術支援が必要である。
- **今後の事業展開**
  - ・ 個人や団体等の簡易な雪室や雪冷房施設の導入を手引きするため、既存施設を調査し雪氷エネルギー利用のノウハウを収集する。

### 雪室を活用した実用化試験

#### 21) 自然薯の雪室長期貯蔵試験 【H22～H23】

- **これまでの取組**
  - ・ 大石田町で栽培する自然薯を2箇所の雪室（次年子雪蔵、村山市雪室施設）で長期貯蔵試験を実施



大石田の自然薯ほ場における試食会



次年子雪蔵(雪むろ)での長期保存

- **成 果**
  - ・ 春に収穫した自然薯を次の収穫期となる秋まで雪室に貯蔵し、夏場でも出荷できるようになった。
- **課 題**
  - ・ 通年出荷による自然薯の販売促進
- **主な意見**
  - ・ 通年出荷に向けた雪むろによる長期貯蔵は成功した。今後は生産販売体制の強化に向けた取り組みのため終了とする。(今田委員)
- **評 価**
  - 1：長期貯蔵試験は終了とする。
- **今後の事業展開**
  - ・ やまがたゆきみらい推進機構の事業としては終了とする。

#### 22) 雪の冷風を利用した粉乾燥試験 【H21～H23】

- **これまでの取組**
  - ・ 山大工学部と共同で粉乾燥試験を実施（村山市袖崎雪室施設）



村山市袖崎雪室における粉乾燥試験

- 成 果
  - ・ 雪室の乾燥した空気を利用し粉を乾燥させることができた。
- 課 題
  - ・ 実用化できるかが課題
- 主な意見
  - ・ 試験は成功したが、実用化に向けての課題が山積。消費者ニーズにもマッチしていないため実用化には時間が必要である。(二藤部・今田委員)
  - ・ 調査研究は課題が見つければ再開すればよいので一旦終了とする。(沼野・二藤部委員)
- 評 価
  - 1：実用化試験は終了とする。
- 今後の事業展開
  - ・ やまがたゆきみらい推進機構の事業としては終了とする。



## 【 共 通 】

### 表彰制度

#### 23) やまがたゆきみらい大賞 【H20～】

##### ○ これまでの取組

- ・ 雪国の伝統行事や雪を克服する活動、住み良い暮らしづくりに貢献している県内個人・団体を顕彰する制度として創設している。



平成 22 年度受賞 米沢雪灯籠祭り



平成 23 年度受賞団体の表彰式

##### ○ 成 果

- ・ 他地域へのよき事例の紹介を通じて、活動の普及推進が図られている。
- ・ H20：2 団体
- ・ H21：2 団体（特別賞：1 団体）
- ・ H22：1 団体
- ・ H23：3 団体

##### ○ 課 題

- ・ 推薦団体が少ない。

##### ○ 主な意見

- ・ 今後も推薦されるような継続性があり、表彰に値する団体があるようであれば継続していくべきである。（東山委員長）
- ・ 今後はボランティア活動に対する団体の推薦が増加するのではないか。（今田委員）

##### ○ 評 価

- 5：表彰に値する団体がまだまだあるので、ボランティア活動団体等を含めて掘り起しが必要である。

##### ○ 今後の事業展開

- ・ 顕彰団体の良き取組みを地域内外に普及させていく。

#### 24) こどもゆきみらいコンセプション 【H20～】

##### ○ これまでの取組

- ・ 幼い頃に楽しく遊んだ雪の思い出や雪と共存していく未来への思いを、創造的な発想と感性でとらえた絵画コンクールを開催



平成 23 年度受賞作品の展示(河北町どんがホール)



平成 23 年度受賞作品の展示(新庄駅ゆめりあ)

- ・ H20 : 301 点応募 (大賞 2 優秀 7 佳作 10)
- ・ H21 : 173 点応募 (大賞 2 優秀 5 佳作 10)
- ・ H22 : 122 点応募 (大賞 2 優秀 4 佳作 8)
- ・ H23 : 317 点応募 (大賞 2 優秀 7 佳作 11)

○ 課 題

- ・ 成果に比べて業務量が多い。

○ 主な意見

- ・ 過去の傾向を見ると、米沢地区の参加が非常に少ない。(東山委員長)
- ・ 1 次審査から 2 次審査にかけて運営幹事から多大な協力をいただいております。感謝、今後も継続したい。(今田委員)

○ 評 価

5 : 置賜地区を含めて県内全域からの応募がくるような対策が必要である。

○ 今後の事業展開

- ・ 参加校の拡大に努めていく。

情報発信

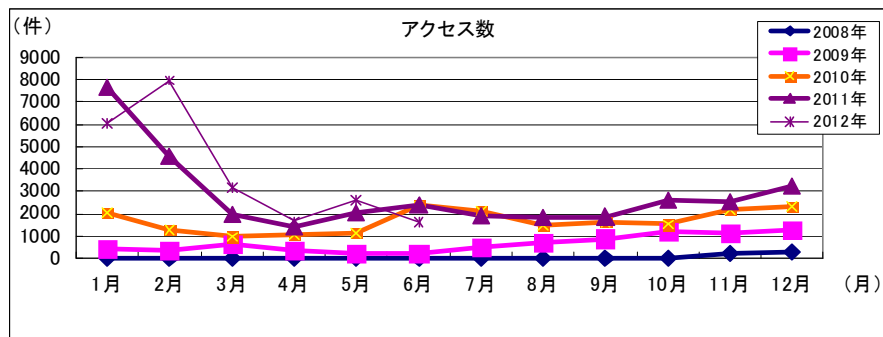
25) ホームページの管理運営 【H20～】

○ これまでの取組

- ・ イベント等の情報発信

全ページ

トータル	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2008年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	230	275	505
2009年	425	365	638	362	225	215	506	690	870	1,183	1,097	1,240	7,816
2010年	2,053	1,248	949	1,067	1,107	2,359	2,098	1,497	1,598	1,519	2,198	2,338	20,031
2011年	7,652	4,584	1,968	1,404	2,024	2,398	1,896	1,808	1,861	2,594	2,536	3,231	33,956
2012年	6,054	7,970	3,172	1,660	2,613	1,627							23,096



○ 成 果

- ・ アクセス件数は増えてきている。

○ 課 題

- ・ 他の HP からもアクセスできる様にする等、アクセスのし易さに対する工夫が必要

○ 主な意見

- ・ 2 年連続の大雪を反映して、昨今の HP へのアクセスが増加しているが、一層の内容充実が必要 (今田委員)

○ 評 価

5 : アクセス数が増加しているが、内容充実を図り県内外に情報発信していく。

○ 今後の事業展開

- ・ 内容を充実させるとともに、タイムリーな情報発信をしていく。

## 5 組織のあり方

### ○ 主な意見

#### 【東山委員長】

- ・ 民を増やしていく必要がある。
- ・ 新潟県では、各市町が持ち回りでシンポジウムを開催している。毎年テーマが違うので地域巡回という点は非常に良い。事務局も北村山だけでなく県全体での連携の仕方があるのでないか。
- ・ 運営幹事会の組織としては、ハード・ソフト・利雪の三つの分野になる。
- ・ 会員の構成が行政職員に依存している状態である。
- ・ 議員の関心が薄いので、地域を担う議員に入会していただきたい。
- ・ 県が組織の中にあるメリットが大きいので、このままの組織でやっていく方法を検討していくべきである。

#### 【沼野委員】

- ・ 産学官民の組織だが官が強いと感ずるので、バランスが必要、啓発、実践など何をやるか、誰が担うかで違って来るが、両方を考えていく必要がある。
- ・ 屋根雪処理と宅地内雪処理については、技術開発とボランティア活動に分け、ワークキング形式でハードとソフトに分けた方が良い。
- ・ 機構の活動が、県民ニーズにつながる事業を展開していけば、民が参加するメリットが感じられる組織になる。

#### 【桂木委員】

- ・ 産学官民の組織ではあるが県の組織というイメージが強い。
- ・ 克雪部会の下に、屋根雪処理と宅地内雪処理の勉強会（研究会）の組織が良い。
- ・ 屋根雪処理と宅地内雪処理を分割されていると、両方の所属する運営幹事が大変である。
- ・ この事業評価委員会に参加した感想として、良いことをしていると感じたが、ほとんどの県民がわかっていないのが残念である。
- ・ 入会金だけ支払って、機構の活動には関与しない会員が多い。入会金方式は会員数だけが増加していく。

#### 【二藤部委員】

- ・ 豪雪地域に住む県民からすれば、機構は必要な組織であり、今後持続性ある強い組織にしていく必要がある。
- ・ 屋根雪処理部会と宅地内雪処理部会を統合して、「克雪部会」にする。
- ・ ボランティア部会を新設し、東山現宅地内雪処理部会長から担当していただく。
- ・ 山形大学が開催している雪合戦などの親雪イベントを普及させていく。
- ・ 利雪部会はそのままして、3部会構成は同じとする。
- ・ 県の全面的支援がいつまで持続できるかわからないので、先を見据えて県が事務局から手を引いた時の対応として、事務局を豪雪地域（尾花沢市など）にもってきておく。

#### 【浅野委員】

- ・ 一般会員が少ないために県民の一番苦勞している点が出てこない。
- ・ 官民協働除排雪などの機構の活動を町内会報に取り上げて、事業の有難味などを感じてもらって町内会住民の会員入会につなげていきたい。

#### 【菅野委員】

- ・ 屋根雪処理と宅地内雪処理については、ハードの技術的な面では同じである。この二つの部会は、ハードとソフトの分野に分けられる。
- ・ 民を増やしていくには、少しでも関心を持ってもらって、輪を広げていく方法もあるが、関心を持ってもらうことほど難しいことはない。



○ 今後の方向性

- ・ 行政が多くなっている産学官民の組織のバランスを是正していくために、一般県民を中心とした会員の増加を図っていく。
- ・ 運営幹事会の三部会の組織を「克雪」・「ボランティア」・「利雪」部会に再編し、運営幹事会及び総会に諮問した上で、平成 25 年度から活動していく。
- ・ 事務局を北村山に置いているが、県内全域での活動を視野に、県内各総合支庁との連携の在り方を模索していく。

6 財政基盤の確立

○ 主な意見

【東山委員長】

- ・ 機構の自己資金だけではやれないので、実証試験なら補助金があると思うので、そうした補助金の申請を積極的にやっていく。
- ・ いろんな学会の場合では、年会費の負担が重くなり、辞めていくケースが出ている。
- ・ 年会費制にすると確実に会員数が減少する。

【二藤部委員】

- ・ 基金を活用した財源の確保できないか。

【浅野委員】

- ・ 機構の活動に関心を持つ純粋な会員を把握するには、入会だけの負担ではなく年会費の方が良い。

【菅野委員】

- ・ 県の雪対策総合交付金の制度を見て、これまでの取組の成果だと感じた。とにかく続けていくことが大事である。

【今田委員】

- ・ 大学のように外部資金を獲得できないか。

○ 今後の方向性

- ・ 機構独自の財源を確保して事業展開を図っていくことは、現時点においては困難である。
- ・ 産学官民組織の機構が知恵を出して、行政が予算面で支援していく現在のスタンスを当面は継続していく。
- ・ 雪対策総合交付金制度に基づき、各市町村の取り組む事業について、これまでの機構の成果を基に強く支援していく。

7 全般について

○ 主な意見

【東山委員長】

- ・ 機構に関わっていない人が意見を言える場として利用してもらいたい。
- ・ 県内での取組みはしているが、学会などで成果を発表するなど、世の中に情報を発信していくことが遅れている。意識してやっていくことが必要である。
- ・ 現在の機構は、堅くて入会の依頼をして入会してもらえらるような団体ではないので、喜んで入会してもらえらるような魅力ある団体にしていかなければならない。

【二藤部委員】

- ・ 5年サイクルで、事業評価委員会を実施して欲しい。
- ・ 今回の事業評価委員会をきっかけに、運営幹事会などで中期的な方向性を議論していければ良い。

- ・ 中越防災推進機構は、機構の目指す方向性として近い。

**【浅野委員】**

- ・ 屋根雪処理チェックシートを作成したのは、機構の大きな成果である。成果を出すには時間がかかるが、今後のこういった取組みを存続してほしい。

○ **今後の方向性**

- ・ 事業ごとに、平成 28 年度までの事業の方向性を定めていき、最終年度に事業評価委員会を開催し、社会情勢の変化や県民ニーズに即した次年度以降の事業展開の方向性を定めていく。

**8 事業評価委員会の開催**

- 諮 問：平成 24 年 7 月 13 日付けゆきみらい第 49 号

○ **第 1 回事業評価委員会**

- ・ 開催日時：平成 24 年 7 月 31 日（火） 15：30～17：00
- ・ 開催場所：村山総合支庁本庁舎 201 会議室
- ・ 出席状況：委員 7 名中 7 名出席

○ **第 2 回事業評価委員会**

- ・ 開催日時：平成 24 年 8 月 23 日（木） 13：30～16：15
- ・ 開催場所：村山総合支庁本庁舎 202 会議室
- ・ 出席状況：委員 7 名中 7 名出席（内代理出席 1 名）

○ **第 3 回事業評価委員会**

- ・ 開催日時：平成 24 年 10 月 5 日（金） 14：30～17：00
- ・ 開催場所：山形市民活動支援センター高度情報会議室
- ・ 出席状況：委員 7 名中 6 名出席

- 答 申：平成 24 年 11 月 29 日

